

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【野田小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>【学習上の課題】漢字や計算などの基礎基本の定着率の個人差が大きい。算数の「図形」領域の正答率が他の領域と比べて低い。</p> <p>【指導上の課題】学校全体で共通の取り組みをし、途中経過を把握・検証し、改善を図る必要がある。</p>	<p>学年の実態に合ったオリジナル漢字テストを作成し、再テストを実施する。【月に2度の実施】算数の100問計算を毎時間実施する。計算内容は、単元に合ったものを作成する。【算数の授業にて毎時間実施】図形の単元では、観察や構成、作図などの活動の充実を図る。【各図形領域単元】学校課題研修と関連させ、結果の入力シートを作成し、取り組みを振り返る時間を設ける。【学期に2回】</p>
思考・判断・表現	<p>【学習上の課題】国語の「話すこと」について課題がみられた。算数では、協力を立てて自分の考えを説明することに課題がみられた。</p> <p>【指導上の課題】意図的に自分の考えを説明する場面が十分ではない。自ら学ぶことができる仕組みに課題が残る。</p>	<p>学年に応じた題材の設定をしたり、目的や意図に応じて話し方を工夫したりしてスピーチを各学年で行う。【月1回以上】算数の時間に「式・図・言葉」などを用いて個人で考える時間を確保し、友達に説明する場を設ける。【各単元で2回以上】PDCAシートを作成し、児童自身が取り組みを振り返る自己評価や他者評価し、次への学びにつなげる。【学期2回以上】</p>

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語の「言語の特徴や使い方に関する事項」に課題がみられた。話し言葉と書き言葉との違いや漢字を文章で正しく使うことに課題がみられた。その機会を増やすために、様々な場面において主語・述語の関係を意識して話し書き表現したりすることや文章のつながりを考えて漢字を使う場を設ける必要がある。算数の「図形」領域において、深い理解を伴う知識やその活用に関する課題がみられた。生活場面に想起し、活用できる知識・技能を習得せられるよう、問題文から関係性を把握し、立式したり、具体物を活用したりする活動を増やしたい。児童全員が、「国語も算数も授業の内容は分かっており、問題について諦めずに考える」と回答しているが、今回の調査では解答時間が十分でないと回答した児童が約30%近くいたことから、問題文から情報を整理し、既習事項を適切に活用して多面的に考える場面を増やしていきたい。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語の「読むこと」に関する内容や、記述での解答の正答率は高く、自分の考えを伝えるための表現の工夫や自分の思いを書き表す力が向上していると考えられる。さらに自分が伝えたいことを正確に表現するために、目的や意図に応じて、必要な材料を分類したり関係付けたりする活動を充実させる。算数では、立体と球の長さの関係や、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことに課題が見られた。立体感覚を養うため、図形を構成する要素に着目しながら、立体図形を見取図や展開図で表したり、逆に、見取図や展開図から立体図形を構成したりする活動場を設定する。また、関係性に着目できるようにするために、数量の変わり方を表や式を用いて考察し、式の意味を深めるとともに関数の考えを伸ばす活動を重視したい。全体的に無回答率は低く、解決方法を模索し、様々な視点から解答しようとする児童の意欲の高さがみられる。</p>	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	漢字の再テストを月に2度以上実施できている。学期を通して平均90点以上の児童には貴状を褒めている。算数の100問計算は、単元に合った内容で作成し、毎時間実施できている。目標は、毎時間実施した児童の正答率を高める児童に貴状を褒めたり、成果を振り返る時間を設けたりしていることで、計算力の向上が図られている。図形の単元では、観察や構成、作図などにつながる教材の工夫に課題がある。各学年で100問計算と漢字テストの結果の入力シートを作成し、その取り組みを振り返る時間を設け、児童の学習や方策の効果を話し合っことができた。	図形の単元では、観察や構成、作図などにおいて課題があるため、立体や図形の性質の理解を深めるために、具体物を作成する。【図形単元毎】
思考・判断・表現	B	各学年のスピーチの取り組みにおいて、実態に応じた題材の設定をしたり、目的や意図に応じて話し方を工夫したりしてスピーチを行うことができた。算数の時間では、自分の考えを友達に分かりやすく伝えるために、「式・図・言葉」などを用いて考える際の指示物を作成できた。また学習の最後に学んだことを振り返り、書き表す際に活用できる「振り返り言葉集」を作成し、活用することができた。また、各単元で2回以上、個人で考える時間を確保し、友達に説明する場を設けることができた。PDCAシートの効果的な活用について検討している。	児童の実態に応じたPDCAシートを作成する。【2学期中】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)